

環境経営レポート



発行:2020年11月25日
対象期間:第64期 2019年7月1日~2020年6月30日

白鷺電気工業株式会社



目次

	P.1 会社概要・業務内容
	P.3 ごあいさつ・企業使命感・存続6ヶ条
	P.4 環境経営方針
	P.5 実施体制
	P.6 環境経営目標
	P.7 環境活動実績【第64期】2019.7～2020.6
	P.8 環境経営計画の実績・取組結果とその評価
 環境活動の紹介	
	P.10 各部の取組み「本業に繋がるSDGs “環境に優しい工事”」
	P.13 やりたいことが部の枠を越えました。白鷺型『Challenge』
	P.18 事業進化 “オープン・イノベーション”
	P.19 各種訓練 ・ 教育の推進
	P.20 環境活動履歴 2019.7～2020.6
	P.21 認証・表彰 他
	P.22 環境経営目標及び環境経営計画 2019～2021年
	P.24 環境関連法規への確認及び評価、違反・訴訟
	P.25 代表者による全体の評価と見直し・指示



会社概要

事業者名 白鷺電気工業株式会社 代表者 代表取締役社長 沼田 幸広

事業所	従業員数	所在地
熊本本社	82名	熊本市東区御領8丁目3番38号
八代支社	39名	八代市宮地町1680
福岡支社	1名	福岡市博多区博多駅中央街8-1 JRJP博多ビル3階
京都支社	4名	京都市右京区梅津南広町6-1 エスパシオ梅津4-A号
人吉営業所	2名	人吉市願成寺町1343-1
鹿児島営業所	0名(電通リレーション本部長兼務)	鹿児島市西千石町11-21 鹿児島MSビル6階
水俣営業所	1名	水俣市浜町1丁目2-22
しらさぎエナジー株式会社	0名(白鷺電気工業社員兼務)	上益城郡益城町小谷2224-8
129名(役員含む、2020.6.30現在)		

資本金 1 億円
 設立年月 1947年2月
 事業内容 電気工事業、土木工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業
 水道施設工事業、管工事業、電気通信工事業、消防施設工事業、機械器具設置工事業

環境管理責任者 安全品質環境管理センター長 上田 浩一
 担当者 安全品質環境管理センター 松嶋 まゆみ
 連絡先 本社 電話:096-380-7171 FAX:096-380-7140
<http://www.shirasagidenki.co.jp>



認証・登録範囲 本社・八代支社・福岡支社・京都支社
 人吉営業所・鹿児島営業所・水俣営業所
 しらさぎエナジー株式会社

対象期間 第64期 2019年7月1日～2020年6月30日
 発行日 2020年11月25日



資格取得一覧 (6月末時点:42種※)

第1種電気主任技術者	第3種電気主任技術者	電気通信主任技術者(伝送交換)	1級電気工事施工管理技士
2級電気工事施工管理技士	1級土木施工管理技士	2級土木施工管理技士	2級管工事施工管理技士
1級電気通信工事施工管理技士	第1種電気工事士	第2種電気工事士	監理技術者(電気)
監理技術者(通信)	監理技術者(土木)	1級 機械保全技能士	測量士補
消防設備士 甲類	消防設備士 乙類	工事担当者1種(アナログ・デジタル)	工事担当者2.3種(アナログ・デジタル)
工事担当者総合職(AI・DD)	工事担当者2.3種(AI・DD)	第1級陸上無線技士	陸上特殊無線技士1級
陸上特殊無線技士2級	危険物取扱 乙類第4類	第1種衛生管理者	品質管理検定2級
品質管理検定3級	エコ検定	日商簿記2級	2級建設業経理士
3級建設業経理事務士	ITパスポート	ビジネスコンプライアンス検定初級	秘書技能検定準1級
秘書技能検定2級	防災士	※ 全65種が「資格手当支給対象」個人の努力が実る制度が作られています	

(掲載欄の都合上、主要資格の一覧です)



業務内容

でんきで広がる楽しい地球。



SEESが地域のインフラを支えます

総合技術商品である「しらさぎ 電気エネルギー総合システム（SEES）」は、今まで培ってきた発電、送電工事の技術を基盤に、電気設備の新設・補修工事や太陽光・風力発電等の新電気エネルギー導入のご提案、経済環境には不可欠な省エネルギー・省コストの実現、さらに快適なオール電化のご提案、ビルや事業所の保守・メンテナンスを行い、皆さまの暮らしと産業をサポートする体制を構築しています。

電力プラント事業



電力プラント事業は、電気を作る発電所の建築工事から、送電、変電所工事、そして電気を使用する企業や工場、一般家庭までカバーし、現代社会に不可欠な電気エネルギー環境を支えています。

快適電化サポート事業

暮らしの中に快適さを実現するオール電化のご提案から販売、取付け、メンテナンスまでを総合的に引き受けします。

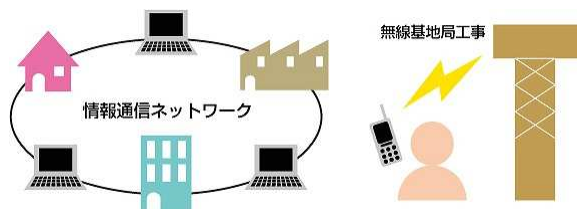
省エネ・省コストサポート事業

事業所の電力使用状況を無料で調査・分析し、総合的な観点から最適な電力消費環境とするためのご提案を行ないます。電気エネルギーを有効にお使いいただくための改善・整備を工事・施工いたします。

でんでんメンテサービス事業

電気・電力の総合メンテナンスサービス事業。より効率的な、安全で安心のできる電気と電力の事業環境をサポートします。電気と電力のメンテナンスに限らず、空調設備、消防設備、ボイラーなど、事業活動を支える各種設備のメンテナンスもお任せください。

情報通信設備サービス事業



情報通信設備サービスは、情報通信・ネットワークの基盤となる光ケーブル伝送路工事や携帯電話基地局建設工事等の情報インフラ整備から、企業や一般家庭における情報提供の設備までカバーしています。

新電気エネルギー事業



自然環境を守るために重要視されているのが自然のパワーを活用したクリーンな電気エネルギー発電の採用です。弊社では実績のある関連メーカーとの協力体制を強化し、維持管理が簡単で長期にわたって安定した作動をする太陽光発電など用途にあったシステムをご提案いたします。



ごあいさつ

近年のデジタル技術の急激な進展は、私たちの生活スタイルや産業構造を一変させ世界的規模での変化をもたらしています。また、それに伴う地球規模の資源・エネルギーの枯渇や環境への負荷の増大が問題となっています。主体的に行動することが一つの課題であることから、SDGsを考慮した経営活動を行い、社会・経済の発展と地球環境保全に貢献していくことを目的として、2019年7月に環境経営方針を大きく改定しました。

白鷺電気工業は、創業の原点に立ち返り、先人によって築かれた進取の精神で、変革の時代のどのような要請にも応えるべく、社会的課題にも真摯に向き合いながら新たな事業進化に取り組んでまいります。

2020年6月



企業使命感

くらしと産業の礎をひらく パートナーシステムの 白鷺電気工業



存続6ヶ条

- 1 安全 私たちは作業環境の整備を図り、災害ゼロの明るい職場をつくれます。
- 2 協調 私たちは相互信頼の精神に立ち、常に相手の立場で考え行動します。
- 3 技術 私たちはいかなる要望にも即応できる技術としくみを開発します。
- 4 啓発 私たちは常に前進を忘れず、昨日よりも今日、今日よりも明日と自分をみがきます。
- 5 システム 私たちは受注から完成、アフターサービスまでよきチームワークでムダ、ムラ、ムリのない相互協力を行います。
- 6 業績 私たちはよい仕事を安く、早く、きれいに仕上げることで信用・業績を高めます。



環境経営方針

【基本理念】

白鷺電気工業は、「企業使命感」及び「存続6ヶ条」に基づき、国際社会の目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」を考慮した事業活動を行い、社会・経済の発展と地球環境保全に貢献していくとともに、地球上の誰一人として取り残さない（Leave no one behind）ことを理念としてSDGs達成に向けた活動に積極的に取り組みます。

【行動方針】

1. 環境に配慮した事業の推進

事業活動における環境への影響を低減させるため、環境への配慮を行うための目標を明らかにするとともに、これに基づく取組をPDCAサイクルの繰り返しにより継続的な改善に取り組みます。

2. 法規等の遵守

事業活動に係る品質・環境関連法規制、条例、協定及びその他合意した事項を遵守します。

3. 啓発活動の推進

環境教育、環境社会貢献活動などを通して本方針を周知するとともに、社員の環境保全の意識の向上を図り、地域の環境保護活動に積極的に貢献します。

4. コミュニケーションの推進

社内外のステークホルダーとの積極的な環境コミュニケーションを進め、相互協力を努めます。

5. SDGs（Sustainable Development Goals）への取組み

「知る」から「行動する」、そして「貢献する」へとSDGsに対する取組みに注力します。

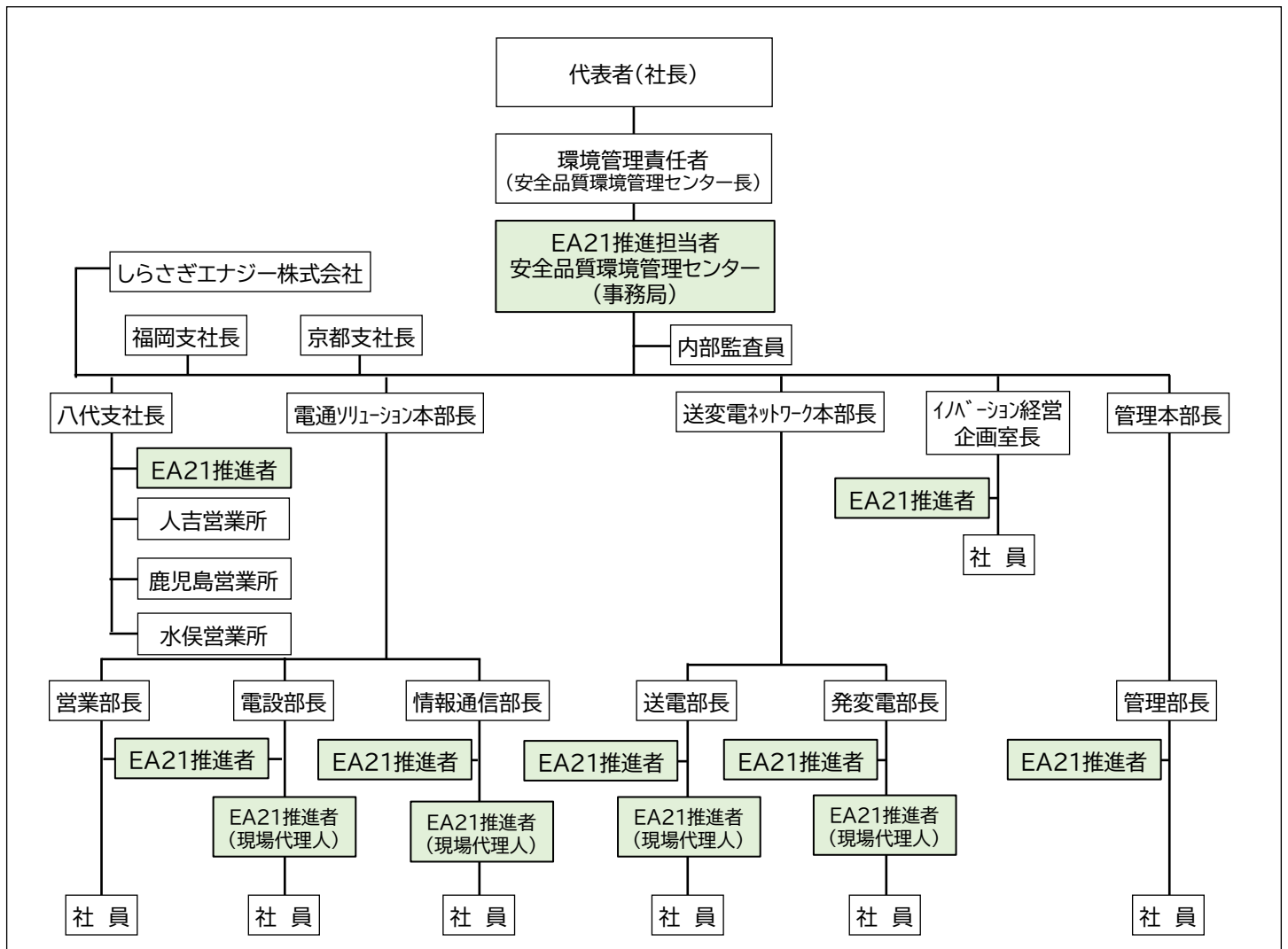
制定 2011年12月1日

改訂 2019年 7月1日

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田幸広



実施体制



順位	主な責任と権限
代表者(社長)	環境経営方針の制定と、EA21環境マネジメントシステムの統括 環境管理責任者の任命 取組状況を評価し全般的な見直しの実施及び指示 環境活動への取組を適切に実行するための資源(人・物・金)の準備
環境管理責任者	代表者より委任を受け環境経営システム全体的な構築、運用、維持に関する責任と権限 環境経営計画の策定及び進捗管理を代表者へ報告 環境関連法規のとりまとめと評価及び環境経営レポートの確認と公表
EA21推進担当者 (事務局)	環境経営における事務局としての環境管理責任者の補佐 環境活動における決定事項を社員全般への伝達及び環境活動記録の取りまとめ 環境上の外部コミュニケーション窓口 環境関連法規の取りまとめ及び環境経営レポートの作成、環境管理責任者への報告
EA21推進者	環境経営の事務所における記録と事務局への報告 事務所内におけるエコ活動の推進 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
EA21現場推進者 (現場代理人)	環境経営の現場における記録と事務局への報告 現場内における緊急事態への対応訓練実施と記録及び事務局への報告 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
社員	環境経営方針、環境目標に沿った環境活動の展開 環境活動における改善点の提言



環境経営目標

区 分	項 目	基準年	3年間の目標		
		2018年実績	2019年目標	2020年目標	2021年目標
二酸化炭素排出量の削減		214,299 kg-CO ₂	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			212,156kg-CO ₂	210,013kg-CO ₂	207,870kg-CO ₂
	電力の削減	147,393kWh	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			145,919kWh	144,445kWh	142,971kWh
	ガソリンの削減	46,705ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			46,238ℓ	45,771ℓ	45,304ℓ
	軽油の削減	19,433ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			19,239ℓ	19,044ℓ	18,850ℓ
	灯油の削減	1,530ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			1,515ℓ	1,499ℓ	1,484ℓ
一般廃棄物 排出量	一般廃棄物削減 (リサイクル率向上)	5,444kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			5,390kg	10,118kg	10,014kg
産業廃棄物 排出量	産業廃棄物削減 (リサイクル率向上)	13,095kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			12,964kg	12,833kg	12,702kg
水使用量	水使用量 の削減	631m ³	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			625m ³	618m ³	612m ³
グリーン購入	グリーン購入 の推進	4件	基準年の1種類増加	基準年の2種類増加	基準年の3種類増加
			5件	6件	7件
環境に配慮した 事業活動	社会への啓発 活動の推進	イベント参加 (1人当り) 件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年
化学物質の 管理	化学物質の 適切な管理	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認
		1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期

- (注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2018年度九州電力の実排出係数0.347を使用する。
 2. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿った適切な取扱と管理の実施を行う。

(目標の設定)

2018年2月に本社が移転したことによって延床面積が大きく変わりました。
 そのため旧社屋で適用した基準のままでは電気使用量の目標達成率が57.8%となり、また本社ではストーブを使用しなくなり灯油の使用量が減少した等の理由から、基準を(新本社に移転後の2年目)2018年実績とし3年間(2019年～2021年)の中期計画を立てました。

設定した目標に対して状況変化等が生じた場合は、必要に応じて見直し実施したいと思います。

(グリーン購入について)

グリーン購入の調達判断としては「エコマークとグリーン購入法特定調達品目パンフレット」及び「公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局」のホームページにて「グリーン購入法品目」の検索機能を用いています。
 主な購入物としては「紙類・文具類・画像機器等・ごみ袋等」でした。



環境活動実績

【第64期】2019.7～2020.6

環境経営方針		取組み事項	実施内容 (実施:○ 検討要:△ 未実施:×)	評価	5. SDGs の取組み
1. 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン・軽油等燃料使用状況の精度向上	・車両管理表の記入徹底による燃費管理 ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握	○	       
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、新車への買い替え検討 ・省エネ関連製品の提案・導入促進(EVバス等)	○	
		地域環境活動NPOボランティア	・熊本城と八代城跡の清掃活動、森林水源涵養のための里山保全、植林地下草刈り	○	
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の人感センサー・スケジュール機能をEA21推進委員会で見直し、適正な運用の実証実験	○	
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電所発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用	○	
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・マニフェストの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減	△	        
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能なように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色 デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与	○	
		グリーン調達への推進	・事務用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入	○	
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間とCO ₂ 排出やエネルギーの削減 ・E-ラーニングによる社員のSDGs教育 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体表温検知システム導入、販売 ・電気通信工事事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発	○	
2. 法規等の遵守	環境管理の推進	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の確実な把握 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫・油倉庫の整理・整頓	○	      
		環境法規制の遵守	・環境法規制への違反なし、関係当局よりの違反等の指摘なし	○	
		ハザードマップ作成	・工事現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成、現場事務所内に掲示し、周辺環境への影響を最小限に留める	○	
		生物多様性に配慮した工法	・工事用水のろ過機設置	○	
		災害時の備え BCP対策	・非常用電源の設置、非常災害対策本部の適正な見直し、連絡体制の確立 ・長距離無線LANや安否コール等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの保管、管理	○	
3. 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自立運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスパトロール実施(3か月に1回/年4回) ・内部監査の実施 ・防災訓練・環境教育(SDGs)の実施	○	      
		各事業所単位の環境活動支援	・地域ボランティアによる環境貢献活動	○	
		職場環境の向上	・働き方改革の推進(指定休の設定による確実な休日の取得) ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・社員旅行、花見などの社員間コミュニケーション行事の実施 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定 ・新型コロナウイルス感染症対策本部の設置と対策方針の発出	○	
4. コミュニケーションの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	・雇用を創出し就労支援福祉施設へ業務の委託 ・食事の機会に「3010運動」の実施 ・インターンシップや会社見学でSDGs、NPO、ZEBなど説明 ・会社見学者の即時受付のための体制強化 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募 ・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信 ・寄付(マッチングギフト、スポンサーなど)、古切手、プルトップ回収活動などの社会福祉貢献	○	            



環境経営計画の実績・取組結果とその評価

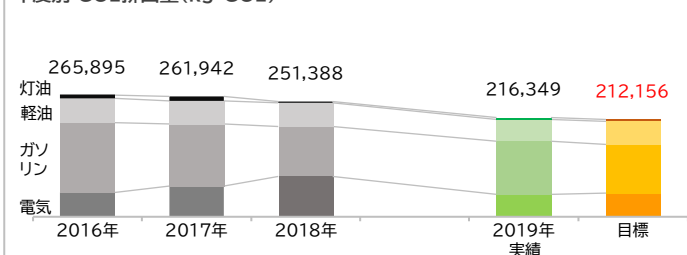
環境目標と取組実績(運用期間:2019年7月~2020年6月)

環境経営実績

*数値目標は2018年実績を基準とし、1%削減を環境目標とした。

項目	基準年 2018年 実績値	2019年 対象期間 (↑ 100%以上 → 60%以上 ↓ 60%未満)			
		目標値	実績	達成度	
CO ₂ 総排出量	214,299kg-CO ₂	212,156kg-CO ₂	216,349kg-CO ₂	98%	→
電気使用量	147,393kWh	145,919kWh	142,035kWh	103%	↑
ガソリン使用量	46,705ℓ	46,238ℓ	49,588ℓ	93%	→
軽油使用量	19,433ℓ	19,239ℓ	18,199ℓ	106%	↑
灯油使用量	1,530ℓ	1,515ℓ	1,710ℓ	89%	→

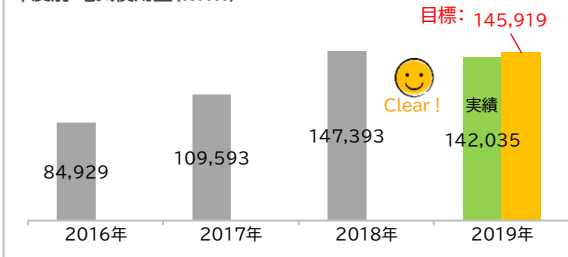
年度別 CO₂排出量(kg-CO₂)



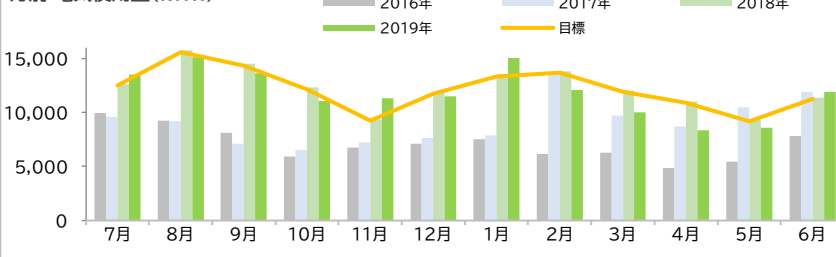
出来高(百万円)当りのCO₂総排出量(kg-CO₂/百万円)



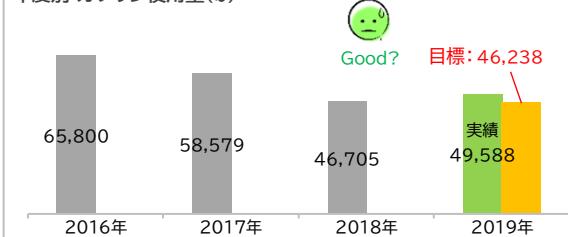
年度別 電気使用量(kWh)



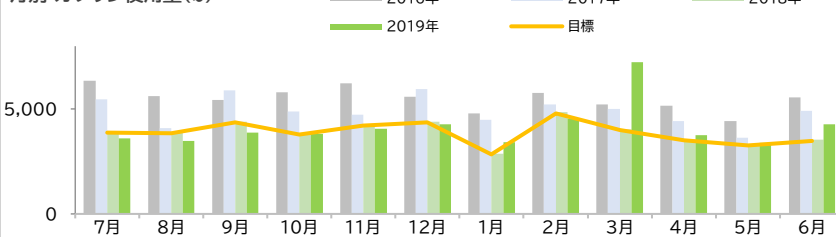
月別 電気使用量(kWh)



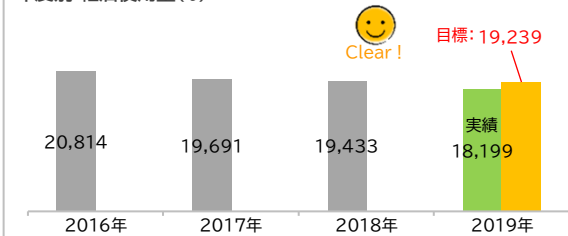
年度別 ガソリン使用量(ℓ)



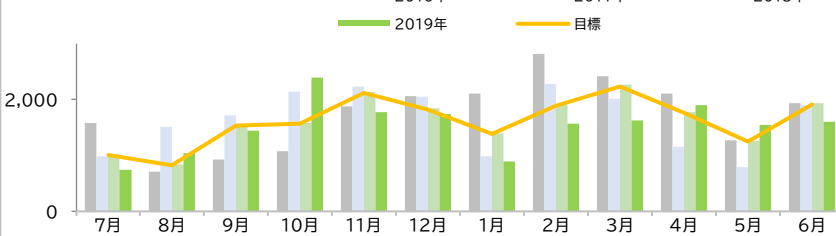
月別 ガソリン使用量(ℓ)



年度別 軽油使用量(ℓ)



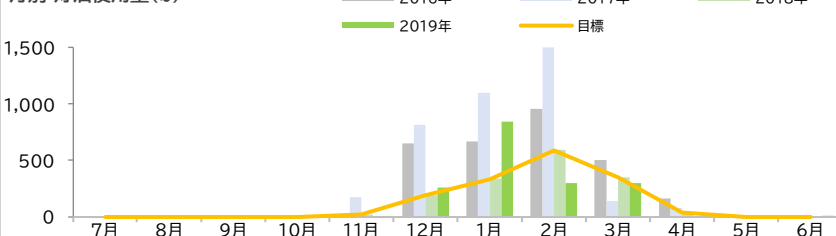
月別 軽油使用量(ℓ)



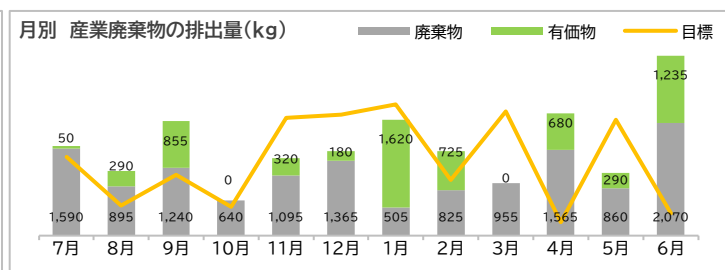
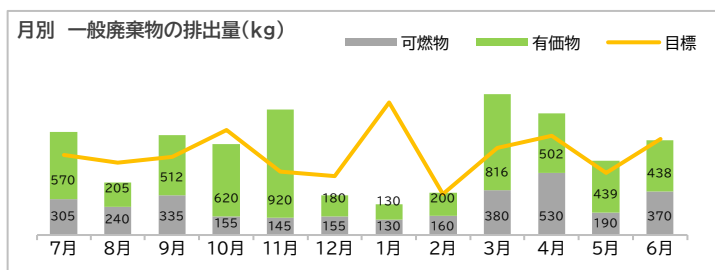
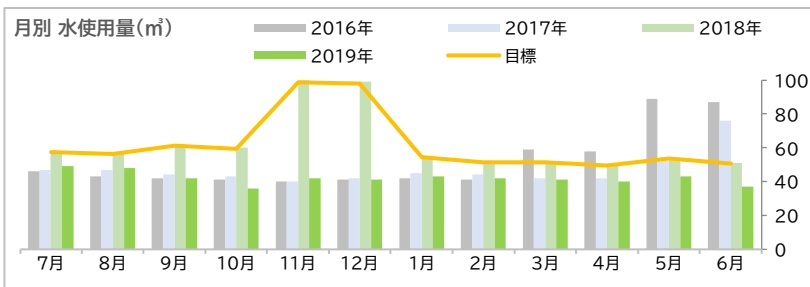
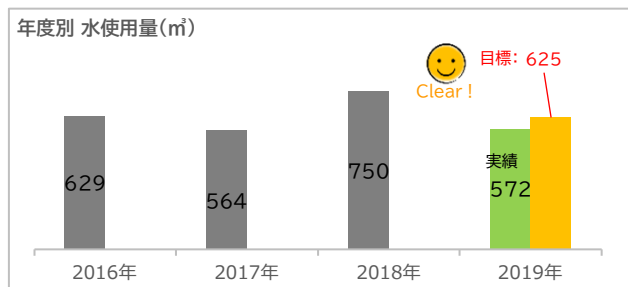
年度別 灯油使用量(ℓ)



月別 灯油使用量(ℓ)



項 目	基準年 2018年 実績値	2019年 対象期間 (↑ 100%以上 → 60%以上 ↓ 60%未満)			
		目標値	実績	達成度	
水使用量	631m³	625m³	572m³	109%	↑
一般廃棄物の排出量	5,444kg	5,390g	8,627kg	62%	→
産業廃棄物の排出量	13,095kg	12,964kg	19,850kg	65%	→
グリーン購入	4件	5件	5件	100%	↑
環境活動に配慮した事業活動	参加:4件/年	参加:4件/年	参加:4件/年	100%	↑
化学物質購入実績	455ℓ	—	340ℓ	—	—

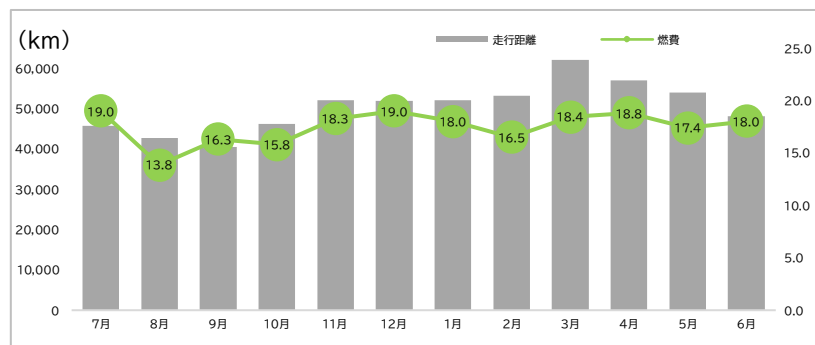


取組結果とその評価

- 電気 1年を通して概ね減少傾向となり目標を達成しました。新社屋移転後の2年目となり、環境に慣れてきたことで執務室の使用効率に関係しているのではないかと考えます。引き続きBEMSによるデマンドコントロールで削減に努めたいと思います。
- ガソリン 目標達成率が93%とほぼ横ばい状態ではありますが、使用料は前年より増えてしまいました。県外工事の受注による移動の長距離増や車両リース増加等の要因もありますが、今後も必要に応じて見直したいと思います。
- 軽油 工事用重機等は最新の燃費改善型のリースや、現場でのアイドリングストップなど、細かく気を配りながら行った結果が数字となって出てきたようです。
- 灯油 灯油の使用は支社のみですが、達成率は89%でした。暖房器具の効果的な使い方がされているかどうか、冬の間はEA21推進委員会で確認をしていきたいと思います。
- 水 水の使用量については達成率109%と大幅な削減が出来ました。新たに社有車駐車場に水道が設置されたため、今後は変動が予想されますが、引き続き節水を励行していきます。
- 廃棄物 廃棄物については12月～2月の間、支社担当者の退職による後任の不在で、適正な数値が取れませんでした。引継ぎ事項の整理を行い、数値の管理を見直したいと思います。

燃費向上への取組み

(平均燃費 17.7km/ℓ ハイブリッド車を含む)



環境と安全に配慮した運転

エンジンブレーキの活用、乗車前に行う車両の点検(タイヤの空気圧チェックによる燃費悪化防止)、アイドリングストップなど環境と安全に配慮した運転を推進しています。



環境に優しいエコカー所有台数

ハイブリッド車(HV)	7台
プラグイン・ハイブリッド車(PHV)	2台
電気自動車(EV)	3台
計	12台

51台中
24%

白鷺燃費 No.1グランプリ

普通ハコバン部門			軽ワゴン部門		
部門	号車	燃費	部門	号車	燃費
1 発電電	28	16.55	発電電	H015	17.80
2 人吉営	34	15.44	送電	H004	16.91
3 送電	39	15.40	情通	H012	16.48

2020年度中には更に6台 新車へ入替予定



各部の取組み 「本業に繋がるSDGs “環境に優しい工事”」

弊社では100年企業を合言葉に、まずは80周年を目指すための『白鷺電気工業 Vision80』という行動指針を策定し、中期経営計画で3カ年の目標を定めています。

「① 本業を深め、広げる」「② 社内起業を促進する」「③ 働き方改革を実現する」「④ さらに地域と共に歩む」が基本の骨格となり、今年度は中期経営計画2年目の年になります。

エコアクション21推進委員会では、これらの骨格をもとに「本業に繋がるSDGs “環境に優しい工事”」について各部の取組み計画を立てました。毎月開催する推進委員会で進捗の発表をするなどし、他部署の取組みを共有しました。初めて本業の中にSDGsを取り入れて考えるようにしましたが、最初はSDGsの紐付けを自社の業務に落とし込むことが難しく、どうリンクさせていくかを悩みました。しかし、タイミングよく同時期に全社的に取組んでいたE-ラーニングの効果もあり、腹落ちする社員が増えていきました。

各部のエコアクション21推進委員
支社と繋いでリモート会議中の1枚



01

発電部



【取組み①】 各変電所 配電盤取替工事 梱包材再利用

配電盤を保護する梱包材が木製から段ボール素材に変わり、本来ならば産業廃棄物として処分するところを丁寧に取扱い、運送業者にメーカーへ持って帰って頂くようにしました（リサイクルされるとのこと）。工事ごとに出る廃棄物なので、引き取ってもらい再利用することで色んな無駄が省けると思いました。



実施推進者
内田社員



【取組み②】 新設変電所 工事用水 ろ過器設置

新設で変電所を建設する機会はありませんので、私たちが勉強になることが多い現場でした。お客様からの要請ではありましたが、工事用水をそのまま小川に流すのではなく、一度ろ過器を通して排水し、環境保全に努めました。場所は阿蘇のカルデラの中、畑や水田に囲まれた場所なので、水の管理には配慮を求められる現場となりました。



実施推進者
田中副長

02

送電部



【取組み①】 軟弱地盤対応 工事車両用搬入路仮設

従来は、表土を剥ぎ取り鉄板や山砂等を敷き搬入路を施工していましたが、プラロードは表土を剥がずに2種類のプラスチック製の物を並べて、その上に鉄板を並べます。設置は大型重機を使うこともないため元の地表を痛めることもなく、工事完了後は素早く原状回復が出来ます。工期の短縮にも一役買っています。

【取組み②】 ドローン延線



送電線鉄塔間の延線は従来はラジコンヘリ等を使用していましたが、高額で操作性も難しく施工会社が少ないこともあり、現在はドローンを使用しての延線が多くなりました。地上で最初のロープを伸ばす際は樹木の伐採が伴いましたが、上空を飛ばすことで自然環境(生態系)への影響を最小限に抑えることが出来ます。燃料も混合油から充電式のバッテリーに変わりました。



実施推進者
中村主任



【取組み①】 体表温同時検知システムの導入

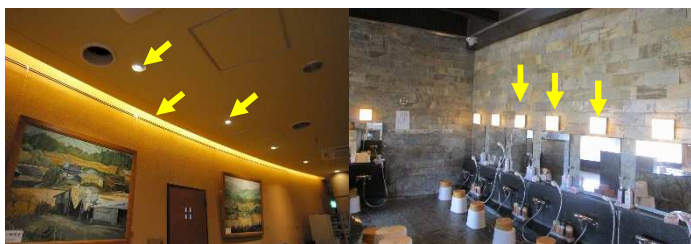
(写真：左)

商材として取り扱いを始めた「体表温同時検知システム」を用い、玄関に設置して毎日社員の体表温の異常を検知し記録するなど、職場での感染症対策と健康維持に役立てています。非接触で多人数の体表温検知が可能のため、必要なすべての場所で活躍することが期待され、普及させることでコロナ禍での経済活動に貢献できるものと思います。

実施推進者
園田社員

【取組み②】 エコケーブルの使用 (写真：右)

焼却時に有害なハロゲン系ガスやダイオキシンを発生させず、鉛等の有害物質を空气中に溶出しないという特徴があります。実際に工事で使った感じとしては、従来の屋外用LANと比べて被覆が固く感じますがそこまで加工が大変なものではないと思いました。



【取組み①】 温泉複合施設 全照明器具LED化工事

山あいにある温泉複合施設の全照明器具を既存の蛍光灯や水銀灯からLED照明へ取り換えました。LED化したことにより消費電力が削減され、節電は勿論のこと、長寿命なため交換費用の削減や水銀などの有害物質の排除につながります。環境保護へまたひとつ貢献できる工事としてとてもやりがいを感じました。



【取組み②】 工場 電気設備工事

電子ブレーカーとは本来、高圧電力契約を低圧電力契約で済む場合に使うことができるブレーカーです。そのため基本料金の削減や高圧電気設備工事に必要な高圧設備を用いらずに済むため、省コストに繋がります。

実施推進者
田村社員

【取組み①】 くもと・マイリバー・サポート事業

今年で7年目のこのボランティアはこれまで13回行ってきました。一見きれいに見えるこの河川敷も、清掃作業を行うと毎回たくさんのゴミが集まります。今期の活動でも、10月26日の作業ではポリ袋4個分、2月15日の作業時にはポリ袋6個分のゴミを回収しました。

河川のゴミが海へ運ばれる前に、水際で拾うことは大事なことです。今後も継続して行っていきます。

* くもと・マイリバー・サポート事業

熊本県は、河川の美化活動の普及と河川の美化に対する意識の高揚を図ることを目的に、河川において、ボランティア団体が行う清掃、除草、植栽等の美化活動を支援する事業を実施しています。

実施推進者
岩下社員

【取組み①】 使用済切手とプルトップの回収

使用済切手の回収とプルトップの回収に取組みました。集まった使用済切手(255g)は熊本善意銀行へ寄付します。これは収集家や買取業者に販売され、活動資金の一部とされます。プルトップ(1,031g)は800kgで車椅子と交換できるため、回収活動をされている地元スーパー設置の回収ボックスへ持参致しました。捨ててしまうようなモノでも集めれば資源問題や福祉の一助になることを実感し、個人ではなく社内に広く声掛けをしたことで多く集めることが出来ました。

実施推進者
井上社員



収穫された にんにくの乾燥庫内



【取組み①】 にんにくの栽培・黒にんにく製造

イノベーション経営企画室では、にんにく栽培・黒にんにく製造において必要な乾燥機を、従来の軽油を使ったものではなく、電気を使った電熱式にこだわっています。乾燥に使う消費エネルギーをできる限り再生可能エネルギーで調達するために、新設した乾燥庫の上に太陽光発電を載せることを検討中で、現在設置手続中です。

エネルギーもエコな熊本産で、安心安全にこだわりの持った製造工程を目指しており、設置後の様子は来期にご報告する予定です。これからもエコの意識が高い製品・製造・加工過程を目指します。



実施推進者
奥主任、眞田主任



手作りのパワーポイント資料

【取組み①】 SDGs 社内教育

64期の「安全の日」や「新入社員教育」などでSDGsについての教育を行いました。社会人にとっては「ビジネスの共通用語」になりつつあるSDGsです。全ての社員の意識改革も担う部の活動としてこれからも色々な形で継続的に行っていきます。

【取組み②】 ハザードマップの作成

防災士取得時の学びを活かしたいと思い、現場事務所を構える長期の工事を中心に、各現場ごとにハザードマップを作成しました。災害が起こりやすい地形や周辺環境を知ること、避難経路の確認や地域の環境配慮に役立ちます。有事の際の備えとなります。



危険箇所を示すハザードマップ



実施推進者
松嶋主任



実施推進者
三村社員



【取組み①】 ゴミの分別

水筒持参者も多いとはいえ、熱中症対策として飲まれることも多く、一日に出る飲料系のペットボトルはけっこうな量になります。分かりやすい表示を掲示することで、社員が自主的に自然に分別をするよう誘導しています。

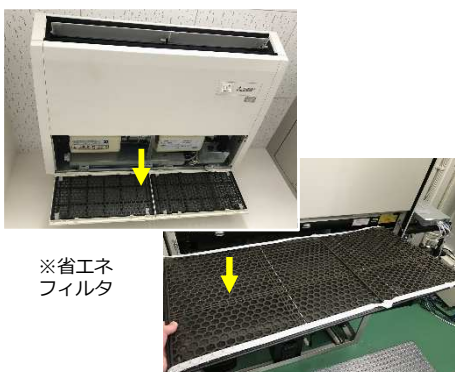
これからもマナーを守って使って頂くよう工夫をしていきます。



【取組み②】 支社周辺ゴミ拾い

支社がお世話になっている地域住民の方々から清掃協力のご要望があるため、定期的にゴミ拾いや草刈りなどの清掃活動を行っています。

きれいな道路と環境を保つことで、防犯面でもお役に立てるのではないかと思います。今後も地域に密着した活動を続けていきたいです。



※省エネ
フィルタ

【取組み①】 しらさぎエナジー(株) 省エネフィルタ実験

イノベーション経営企画室が運営を兼務するしらさぎエナジー(株)では、運営しているメガソーラーの制御室内エアコンの省エネ実験を実施中です。空調に省エネフィルタを設置し、消費電力を抑えることで昼間の利益向上と夜間の無駄な買電を抑制することが出来ます。また、24時間運転の本社サーバー室の空調でも試験中です。

※CONTINEWM、コンティニューム株式会社製



実施推進者
眞田主任



やりたいことが部の枠を越えました。

白鷺型『Challenge』

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスが取れた社会を目指す世界共通の目標として、「誰ひとり取り残さない」という理念のもと、2015年9月に国連で採択されました。

貧困や飢餓、水や環境、教育、医療、言論の自由やジェンダーなど、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成すべき17の大きな目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

弊社ではSDGsの教育を通して様々なことに『Challenge』しています。部署の枠を越えた全員参加型の活動は、より高みを目指すことで自己の成長、会社の発展、地域の貢献へ繋がるものと考えます。

ここからは部の枠を越えた白鷺型『Challenge』についてご紹介します。



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

Challenge 01



Withコロナ時代の働き方

新型コロナウイルス感染拡大が熊本県でも現実味を帯びてきた2月から、繰り返し社内掲示板にて予防徹底の周知を図ってきました。2月の下旬に赤外線による体温測定用IPカメラを設置し、出社時に体温確認をしながら手洗い消毒を励行しました。4月の緊急事態宣言中は各支社〜本社間の往來を禁止し、同月中に対策本部を立ち上げ、期末の6月末までに具体的な対策項目を示した周知を第4号まで発出しました。

毎月開催する安全衛生委員会では産業医による助言・アドバイスと共に接触確認アプリ「COCOA」の活用を周知し、5月からは全社的にテレワークの実証実験を子どもが学校休校中などで希望するご家庭から始めました。本社・支社間の往來を抑制した結果、リース車におけるガソリン代13%・高速料金代46%減という顕著な結果が出ました。

現場では薬箱の備えに加え、移動車内「消毒液常備」と現場事務所の「消毒・体温計の常備」をルール化しました。県内では職場でのクラスターが発生している中、まだ「濃厚接触者」さえ出しておりません。

各々の危機意識の高いことが全社員とその家族の安全、そして遅延なく工事の納期を守ることに繋がります。

環境経営方針 1 2 3 4



サーモカメラ導入時
初期型

現在活躍中 AI搭載
体温検知システムV2
型・V2L型



現場事務所に
毎朝の体温計測

Challenge 02

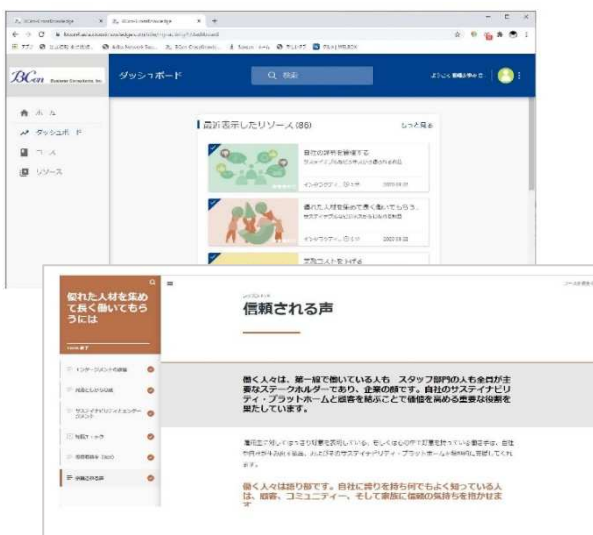
環境経営方針 1 2 3 4

「全役員・全従業員」が対象 SDGs E-ラーニングの開始

SDGsの本質を理解するため、派遣社員も含め全役員・全従業員を対象に E-ラーニングを受講しました。期間を1年間とし、PCやスマホを使って全11項目について学び、知識を深めました。

中途社員や新入社員も別途、期間を設けスタートしますので、誰一人として取り残すことはありません。毎月進捗状況を確認し、各部の修了者を把握しながら、全員が期間内に終了できるよう取組みました。白鷺電気工業が目指すSDGsの「自分ごと化」の第一歩が踏み出せたと思います。

記念として修了者全員に「Challenge 08」の手作りの木製バッジが進呈されました。



熊本からクリーンな空気を ゼロ エミッション車 「EVバス」の導入



社員を待つEV車



自動車由来のCO₂削減を目指し、2019年12月にEVバスを導入しました。
「2050年のこどもたちのために 熊本から未来を変える」30年後の2050年にEVバスが熊本中を走っていること、そして未来の子どもたちが熊本のクリーンな空気を吸いながら笑顔で生活をしていることを願って、このEVバスプロジェクトを立ち上げました。
EVバスは、弊社が取り組むSDGsの目標7
「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」
へ繋がります。

今後は自治体・企業の皆様と環境問題を一緒に考え、普及拡大に努めていきます。



ボランティア時の移動車として

コーヒー1杯の身近なSDGs活動



レインフォレストアライアンス
認証マーク

Shiroカフェ では10月から「アイス用カップ」をプラスチック製からリサイクルPET原料を25%以上配合した環境配慮型へ変更します。また、ストロー不要の蓋へと変更し、ストローの使用を廃止します。おかわりはカップの再利用をお願いしており、引き続きマイカップ利用も促進します。 コーヒー豆は「レインフォレスト・アライアンス」や「フェアトレード」認証コーヒーを利用します。

お得な手作りコーヒーチケットも販売しています。 業務でお世話になった方へ、スツとお礼の気持ちを渡すのもスマートなコミュニケーションですね。

職場で飲む1杯のコーヒーが、SDGsへ参加することに繋がる活動です。 私たちにも今すぐできる身近で気軽な社会貢献のひとつです。

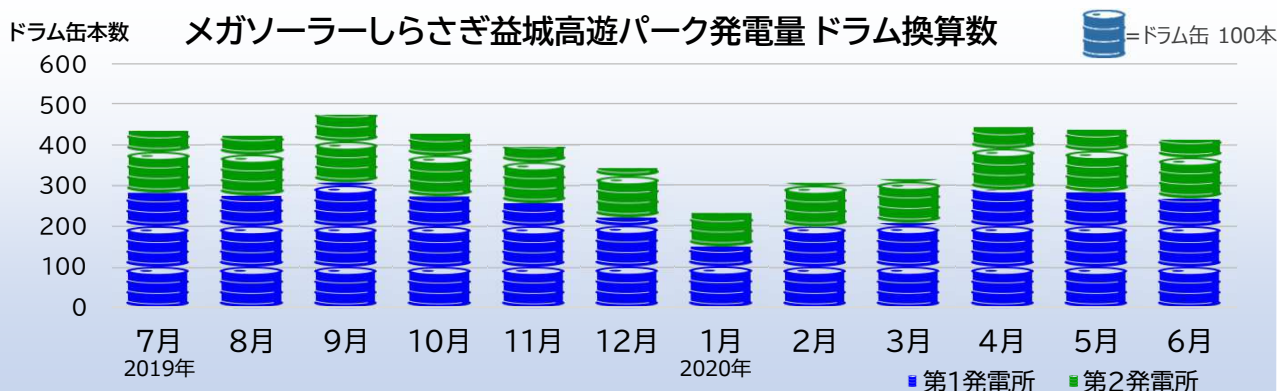


お得に飲める
手作りのコーヒーチケット

脱炭素社会の実現 CO₂ 排出“0” へ向けて

電気工事会社が 自社の技術力で社会に貢献できることの一つは、再生可能エネルギーの普及と創出です。

約66,000㎡の広大な面積を誇るメガソーラーは、家庭で1年間に使用する電気の約1,000世帯分を賄う電力を作ることができます。 本社の1FにあるSQE管理センターでは監視モニターが設置され、24時間体制で管理を行っています。 太陽光発電を始めとする再生可能エネルギーは2050年の脱炭素社会の実現に向けて、ますます必要とされるエネルギーです。





リスクに対する適応策 BCPの取組み

災害発生時に従業員の安全を守るためには日ごろの備えが必要であることから、熊本地震の経験を踏まえて「災害に強いビル」を目指し、BCP対策にも取り組んでいます。備蓄品の中には食料や薬もあるため、消費期限の確認を定期的に行い、廃棄などで無駄が出ないように管理しています。

自宅外の避難を余儀なくされた従業員の家族にも一時避難が可能となるように災害用簡易ベッドを準備し、更衣室には男性女性それぞれのシャワー室を完備しています。災害発生時には「安否確認サービス」が各自の携帯電話へメールで届き、本人以外にも家族や家屋の無事と状況まで迅速に伝える手段を確保しています。

また、本社の通信機能が災害によって途絶えた際にも、鉄塔に設置した長距離無線LANで本社から約50km離れた八代支社間まで不知火を中継地点にした通信システムを構築しています。八代支社の通信機能が生きていれば、無線LANを通じてインターネットを利用することができるようになっています。

本社社屋には太陽光で発電された電気を蓄電する非常用電源も備えており、災害発生時には初動対応としていち早く現場へ駆けつけられるよう、地域のライフラインを守ることを使命として、常に準備万端に整えています。

生活の基盤を守ることが使命



主な備蓄品リスト

- ・毛布、アルミブランケット
- ・袋式トイレ
- ・食事(アルファ米、クラッカー、パン)
- ・飲料水
- ・救急用品(薬、マスク、包帯他)
- ・AED、応急処置ハンドブック
- ・布担架
- ・発電機、懐中電灯、ラジオ
- ・炊き出しステーション
- ・ダンボールバット その他

幸福度 No.1 の企業を目指して



社員旅行「ふれあいの日」

学校が夏休みに入ったタイミングで毎年行う社員旅行「ふれあいの日」は、しらさぎグループ社員や家族も参加して7月28～29日に行われました。

昨年は逆風台風の影響で中止になりましたが、今年もリベンジで広島へ、熊本駅発と八代駅発の2班に分かれて出発し、宮島の厳島神社や呉の大和ミュージアムなど観光を楽しみました。1日目の懇親会では、社員や家族の皆様と親睦を深めました。



むつみ会主催 お花見

2020年は見送られましたが、例年の3月末に行われるのは社員の家族も参加する「お花見」です。午前中はスポーツレクリエーションで軽く汗を流し、午後からはビールサーバーを準備しての親睦会です。ここで毎年、4月に入社予定の新入社員も参加して、先輩たちとのコミュニケーションデビューとなります。

花見でも「3010運動」を実施し、なるべく食べ物の廃棄“ゼロ”を目指します。食べきれないおにぎりやちくわなどはあらかじめ個包装のものを準備し、残りはお持ち帰りできるような工夫をしています。



治療しながら働ける職場作り 「治療と仕事の両立支援」

健康診断受診率100%の弊社でも、病気になるリスクは人それぞれです。いざという時、まず心配するのは仕事やお金のことではないでしょうか。弊社では病気と仕事の両立支援に取り組んでいます。元気な体で職場に戻って来てくれることを願い、サポート体制を整えています。「この会社なら安心して生涯働ける」または「この会社で働いてよかった」と従業員が感じてもらえるよう、「病気積立休暇」などの制度で支援を行っています。

次世代育成支援対策推進法・女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」の策定

この行動計画は、少子化問題への対応として、次代を担う子どもが健やかに生まれ育成される環境を整備するため、また、女性の個性と能力を十分に発揮出来る社会の実現を目的とし、女性の職業生活における活躍の推進と雇用環境の整備を行うため、弊社では2020年4月～2025年3月までの5年間の計画期間とし、行動計画を策定しました。

男女の区切りなく共に活躍出来る職場や社会で、多様性を認め合いながら力を伸ばせる職場作りを目指しています。

白鷺電気工業オリジナル 廃材を利用した SDGs木製バッジ 製作

ドラムの廃材(横木)を集め、くり抜き加工し、地域の就労支援福祉施設に作業をお願いしながら製作を進めました。 外部に委託することによって雇用の創出や働くための支援などに少しでもお役に立てたのではないかと思います。

ピンを留める台紙には「バナナペーパー」を採用するなど、使う材料にもこだわりました。 社屋見学者への記念品やE-ラーニング修了者への修了記念としてプレゼントしています。



材料になるドラム

託麻ワークセンターさん



組立て

3種類のラインアップ



完成!



ZEB(Net Zero Energy Building)

本社ビル見学者 636人達成

2018年2月に竣工した新本社ビル。ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)とは、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物のことです。地中熱利用換気システムやオフィスビルでは日本初(※1)となるスマート直流配電ネットワークシステムを導入したこのビルに、沢山の方々が視察を兼ね見学のため来社されました。

ZEBリーディング・オーナー登録は自らのZEB普及目標やZEB導入計画、ZEB導入実績を一般に公表し、外部とコミュニケーションを取る役割を担っています。 見学者数は今期66名と、新型コロナウイルスの影響で前期より減りましたが、2018年2月の竣工時から累計636名のご見学者がありました。(※1:三菱電機調べ)



* 社屋の見学を随時受け付けています。お気軽にお声かけください。ご見学頂いた方には記念として「Challenge 08」のSDGs手作り木製バッジを進呈しています。



KIMONOプロジェクト「モロッコ王国」のネーションスポンサー 「～世界はきっと、ひとつになれる～」



障害者スポーツの支援を考えていた白鷺電気工業は、KIMONOプロジェクト「～世界はきっと、ひとつになれる～」イマジンワールド理念に賛同し、「モロッコ王国」のネーションスポンサーになりました。

【KIMONOプロジェクト「ネーションスポンサー」とは】

KIMONOプロジェクトは、世界196か国それぞれをイメージしたKIMONO(振袖と帯)の制作を通し、伝統産業の活性化、世界各国との相互理解や国際平和を目指す活動を展開しています。制作資金はすべて寄付や協賛でまかなっており一定額以上の協賛の場合「スポンサー」として本プロジェクトを支える制度です。そのうち「ネーションスポンサー」とは、1か国のKIMONOを支援する制度です。



着物: 大村幸太郎氏 (京友禅)

帯: 服部織物 (西陣織)





思わぬ効果も 「食品ロスを減らす3010運動」



7月28日の社員旅行と12月26日の忘年会で「食品ロス3010運動」を実施しました。3010運動は、宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンです。環境省HP「3010運動普及啓発用三角柱POP」をダウンロードし、各テーブルに配置しました。

旅行先の広島のホテルでは宴会中のテーブルに食べ残しが無くなることで、給仕係スタッフの仕事効率が上がり「いつもより早く仕事を終わることができた」という思わぬ効果が生まれました。ホテルの担当者からは驚きつつも感謝され、予想外の副産物に私たちも驚き、嬉しく思うと同時に、働き方にも影響を及ぼす運動だと感じました。



送電部の現場で説明を受ける様子



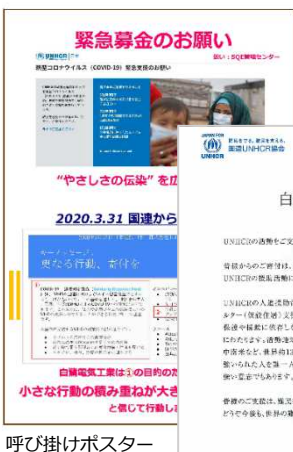
ベテラン社員に教わる端末処理の実習



インターンシップで国際交流

2019年度はインターンシップ生を10名受け入れましたが、その内3名は初めての外国人留学生でした。マレーシアから1人、ベトナムから2人をお迎えし、発電電部・送電部・情報通信部・電設部の業務や実習に取組みました。言葉や習慣の違いに戸惑いもありましたが、多様化が必須の業界として、外国の方々と一緒に働いていくかを会社側も考える良い機会になりました。きっと学生の皆さんも様々なことを感じ取ってくれたのではないかと思います。

インターンシップの経験が、学生の皆さんの将来に役立つことを願っています。



“やさしさの伝染を広げましょう” 国連UNHCR協会へ「コロナウイルス緊急支援募金」を行いました



2020年3月、私たちは国連からの要請に応えるべく、コロナウイルス緊急支援募金を本社・八代支社で行いました。社員からの寄付金に企業が同額を加えて寄付する「マッチングギフト」という方法を初めて取り入れました。

故郷を追われ弱い立場に置かれた人々に温かいご支援を頂けるようご協力をお願いしたところ、期間は2カ月と少しでしたが、多くの社員に心を寄せて頂きました。

まだまだ終息が見通せない状況ですので、「マッチングギフト」の活動は継続的に行っていききたいと思います。



それぞれに感謝状



大規模自然災害発生時における電気通信工事事業者広域連携基本協定締結

弊社は三電計装株式会社（高松市）、株式会社エフォートシステム（広島市）の三社で大規模自然災害発生時における電気通信工事事業者広域連携基本協定を締結いたしました。



左:赤羽社長(㈱エフォートシステム)
中:沼田社長(白鷺電気工業㈱)
右:和田社長(三電計装㈱)

【1.協定の目的】

西日本では近年、各地域において大型地震、大型台風の上陸、災害発生局地的豪雨等激甚災害の認定をうける自然災害に見舞われてきました。被災時に被るライフラインの停滞や交通インフラの機能不全は被災地の復旧に大きな支障をきたす要因となりました。日頃より地域に根ざし自治体や企業と共存している電気通信工事事業者として各省庁や被災自治体からの迅速な応急復旧支援要請（人・設備）に対応すべく本協定を結ぶこととしました。

【2.支援の範囲】

協定締結企業及び支店・営業所所在地から概ね3時間程度で到着出来る範囲を支援箇所とし、被災地での応急復旧対策に必要な作業員や資機材等の支援を行います。災害支援依頼自治体・省庁直轄機関・地方整備局に貸し出す独立電源型監視装置について協定締結企業は常に動作確認した機材を2台以上保有し、支援要請を發した協定締結企業に貸し出しを行います。

災害現場にて活躍の実績

台風19号の災害対応に関して、関東地方整備局様より(株)エフォートシステム様へ「おだけカメラ」を設置したいとの連絡を受けて、広域連携基本協定を結んでいる弊社から「おだけカメラ 2セット」を2019年10月18日に発送し、現地での設置が無事完了したとの連絡が入りました。（現地設置完了、10月22日）



災害現場に設置された様子

令和2年度農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」

農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」において、コンソーシアム（熊本県、熊本大学、ネットワーク大津(株)、(農)狩尾牧場、白鷺電気工業(株)）を組織し、「スマート農業技術を活用した広大な中山間地における周年放牧システム体系の実証」について取り組んでいます。広大な放牧地（144ha）で放牧されている牛の安否確認を容易に行えるよう、長距離無線LAN、LPWA技術等を活用したシステムの設置が完了し、実証実験がスタートされました。

牛に取付けたRFIDタグの情報を、クラウドを利用して飼養者が確認できる放牧牛の「見える化」に取り組めます。

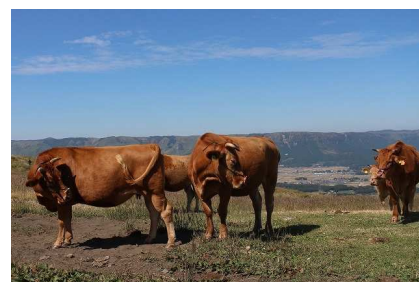
【背景・課題】

- ・阿蘇地域には約22,000haの広大な草原が存在し、放牧・採草利用を中心とした肉用牛繁殖経営の重要な生産基盤となっている。
- ・農家の高齢化や後継者不足等により草原の維持管理が困難となり、草原の遊休化や荒廃が目立ち、放牧牛の頭数が減少している。



【本実証プロジェクトの目的】

- ・安否確認システム導入による放牧牛の確認時間短縮（85%減）
- ・繁殖成績の向上、分娩時の事故防止による子牛生産頭数の10%増（売上増加）
- ・繁殖管理ソフト等の導入により、分娩後初回授精までの日数を40日間、分娩間隔を40日間短縮



放牧の状況

※本実証課題は、農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト（課題番号：畜2H04 題名：スマート農業技術を活用した広大な中山間地における周年放牧システム体系の実証）」（事業主体：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）の支援により実施されました。



各種訓練・教育の推進

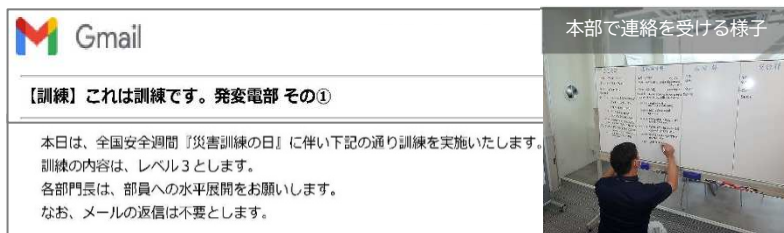


環境経営方針

1 2 3 4

● 2019.7.4 災害訓練

全国安全週間「災害訓練の日」に合わせて、レベル3相当の訓練を行いました。各部で事故発生から緊急連絡体制や負傷者の搬送方法など実際の事故を想定し、関係各所との具体的な連携を確かめました。



● 2019.11.5 「熊本シェイクアウト」訓練

11月5日の「津波防災の日」に実施しました。地震発生時に行う「とっさの行動」を身に付け、安全確保と防災意識を高めることを目的としています。多くの社員が熊本地震で被災した経験から、必要な訓練との認識で取組みます。



● 2019.11.16 消防訓練



火災受信機の発報後、火元発生場所を知らせる館内一斉放送があり、誘導員による的確な誘導で全員素早く避難することが出来ました。避難の後には消火器の取り扱いについて説明を受け、実際に火災に見立てたカラーコーンに向かって消火の実践練習を行いました。



● 2019.8.21 第31回 安全総点検

安全教育研修会も兼ね、社員113名、協力会社29社134名、他得意先も含め総勢259名での研修会となりました。

施工事例紹介、協力会社の「現場の安全」、保健師の「働き方改革とメンタルヘルス対策」、健康運動指導士の「気軽にできる健康づくり」、ラグビーフットボール協会ドクターの「ラグビーワールドカップ2019医療体制」などいろいろな角度から安全や健康について考える一日となりました。終了後のアンケートによると、94%の方が、「とても参考になった・参考になった」との回答を頂きました。



● 2020.6.27 安全の日



新型コロナウイルスの影響で予定より3ヵ月遅れの開催、「非常事態宣言」の中での立案・計画となり、感染症対策を検討した結果、初のリモートで行うことに。

当日は本社と支社、各営業所に分かれ、会議アプリの「Meet」で繋ぎ、協力会社も含め総勢148名で参加。各部の社員が講師となり、送変電ネットワーク本部より「墜落災害の概要及び再発防止対策の再確認」「キーロック方式の概要 フルハーネス型墜落制止器具の説明」について、電通ソリューション本部より「脚立の取り扱い」について、安全品質環境管理センターより「SDGsの取組みについて」「ニューコスモスマニュアルの説明」について自前で制作した動画などで「見せる」工夫をしながら、それぞれ発表を行いました。



環境活動履歴

2019.7～2020.6



● 2019.7.6 八代城跡清掃ボランティア



八代市は創業の地であることから恩返しの意味を込めて始まったこの活動も今年で19回目となりました。今回の参加者は社員の家族や協力会社さんなど総勢171名。
今年も例年通り猛暑が心配されましたが、普段からお取引先としてお世話になっているYKKAP様から「かき氷」の差し入れがありました。参加していた子どもたちも大喜びでした。

● 2019.10.20 やつしろ全国花火競技大会清掃ボランティア



毎年八代市で開催される花火大会の翌日に実施される清掃ボランティアに参加しました。自宅から花火が見える社員も多く、素晴らしい花火を見せて頂いた感謝の気持ちを込めて、翌日の朝7時に集合しゴミ拾いを行いました。ほとんどは花火の欠片でしたが、およそ2時間で5～6袋のゴミを集めることが出来ました。



● 2019.11.9 南阿蘇下草刈りボランティア（晩秋）



11月9日、ヤマグリ・ヤマザクラ・ヤマモミジ等を植林した南阿蘇村造林地0.32haで下草刈りを実施しました。
社員とその家族総勢40名で、生い茂る草を刈払機と鎌を使い2時間程で終了しました。
天候にも恵まれ、秋を迎えた南阿蘇の爽やかな風を感じながら気持ちよく作業を行うことが出来ました。

● 2020.6.6 南阿蘇下草刈りボランティア（初夏）



季節は変わり、初夏の南阿蘇です。草木の青々しさに生命の力を感じます。
今回は新型コロナウイルス対策として、ソーシャルディスタンスを優先に、参加人数の制限、移動用バスの乗り合い分散、マスク着用などを徹底して行いながら実施しました。

スッキリ！



※熊本市が南阿蘇村と水源涵養林「森林整備協定」を結んでいる原野の一角を使用させて頂いています。

NPO法人 “地域と共に” 歩んだ歴史

最初は母体企業、白鷺電気工業(株)のCSR活動の一環としてスタートしました。

平成10年 7月	特別養護老人ホームやすらぎ荘清掃奉仕活動からスタート
平成11年 8月	八代城跡の清掃奉仕活動をスタート
平成16年 7月	熊本城の清掃奉仕活動をスタート
平成20年 4月	第1回阿蘇西原村植林活動をスタート
平成21年 8月	八代城清掃に景勝地「水島」を加え実施
平成22年12月	阿蘇西原村下草刈りスタート
平成24年10月	第21回くまもと環境賞「奨励賞」を受賞
平成25年 4月	山都町菅棚田地区にて米作り実施
平成26年 6月	第23回くまもと環境賞「くまもとストップ温暖化賞」を受賞
平成27年 1月	第110回くまもと環境賞「熊日緑のリボン賞」を受賞
平成27年 6月	平成27年度 環境大臣表彰「地域環境美化功績者」
平成27年10月	「肥後の水とみどりの愛護賞」を受賞
平成28年 7月	熊本市江津湖で清掃奉仕活動実施



～八代城跡、熊本城、西原村植林・下草刈り活動は現在も継続中～

【データ】発足から22年 開催数：のべ64回 ・ 参加人数：のべ7,349人



認証・表彰 他

2019.8.29 熊本県森林吸収量認証書交付

熊本県庁で熊本県森林吸収量認証書交付式が開催され、平成30年度分の森林整備活動によって吸収された二酸化炭素量の認証書、「熊本県森林吸収量認証書」が交付されました。



©2010熊本県くまモン

2019.11.20 「男女共同参画推進事業者表彰」

熊本県が男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいる事業者（企業又は団体）を表彰するもので、今年は8事業者が表彰されました。弊社は、「職場づくり部門」において表彰されました。



2019.10.29 「DBJ環境格付」～熊本初、電気工事業で全国初～

当社グループの「安全を最優先で、高品質な、環境に優しい工事」をモットーとする環境配慮型経営において評価を頂きました。



2019.11.27 EA21環境活動レポート大賞・九州 表彰式

福岡市にて「第12回EA21環境活動レポート大賞・九州」の表彰式が行われ、当社は「九州地方環境事務所長特別賞」を受賞しました。



2019.11.11 「人を幸せにする経営大賞」優秀賞 受賞

熊本商工会議所主催「人を幸せにする経営大賞」優秀賞（中小企業部門）を受賞し、2019年11月11日の熊本商工会議所創立140周年記念式典にて表彰されました。



2020.2.17 第23回環境コミュニケーション大賞

環境省と一般財団法人地球・人間環境フォーラムが共催する「第23回環境コミュニケーション大賞」において、環境経営レポート部門「優良賞（第23回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）」を受賞しました。



2012初刊～2019年までの軌跡

認証・登録番号 0008443 認証登録日 2012年6月26日



第56期 2012年7月初刊



第57期 2014年4月発行
第7回「環境活動レポート大賞・九州」
エネルギー部門賞 受賞



第58期 2015年3月発行



第59期 2015年12月発行
第9回「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞
第20回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



第60期 2017年5月発行
第10回「環境活動レポート大賞・九州」
大賞 受賞



第61期 2017年12月発行
第11回「環境活動レポート大賞・九州」
選考委員会特別賞 受賞
第22回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



第62期 2018年12月発行
第12回「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞
第23回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



第63期 2019年11月発行



環境経営目標

区 分	項 目	基準年	3年間の目標		
		2018年実績	2019年目標	2020年目標	2021年目標
二酸化炭素排出量の削減		250,647 kg-CO ₂	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			248,141kg-CO ₂	245,634kg-CO ₂	243,128kg-CO ₂
	電力の削減	147,393kWh	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			145,919kWh	144,445kWh	142,971kWh
	ガソリンの削減	46,705ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			46,238ℓ	45,771ℓ	45,304ℓ
	軽油の削減	19,433ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			19,239ℓ	19,044ℓ	18,850ℓ
	灯油の削減	1,530ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			1,515ℓ	1,499ℓ	1,484ℓ
一般廃棄物 排出量	一般廃棄物削減 (リサイクル率向上)	10,324kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			10,221kg	10,118kg	10,014kg
産業廃棄物 排出量	産業廃棄物削減 (リサイクル率向上)	13,095kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			12,964kg	12,833kg	12,702kg
水使用量	水使用量の 削減	631m ³	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			625m ³	618m ³	612m ³
グリーン購入	グリーン購入 の推進	4件	基準年の1種類増加	基準年の2種類増加	基準年の3種類増加
			5件	6件	7件
環境に配慮した 事業活動	社会への啓発 活動の推進	イベント参加 (1人当り) 件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年
化学物質の 管理	化学物質の 適切な管理	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認
		1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期

(注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2018年度九州電力の実排出係数0.347kg-CO₂/kWhを使用する。
 2. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿った適切な取扱と管理の実施を行う。

(目標の設定)

2018年2月に本社が移転したことによって延床面積が大きく変わりました。
 そのため旧社屋で適用した基準のままでは電気使用量の目標達成率が57.8%となり、また本社ではストーブを使用しなくなり灯油の使用量が減少した等の理由から、基準を(新本社に移転後の2年目)2018年実績とし3年間(2019年～2021年)の中期計画を立てました。

設定した目標に対して状況変化等が生じた場合は、必要に応じて見直し実施したいと思います。

(グリーン購入について)

グリーン購入の調達判断としては「エコマークとグリーン購入法特定調達品目パンフレット」及び「公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局」のホームページにて「グリーン購入法品目」の検索機能を用いています。

環境経営計画

環境経営方針		取組み事項	実施内容	5. SDGsの取組み
1. 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン・軽油等燃料使用状況の精度向上	・車両管理表の記入徹底による燃費管理 ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握	       
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、新車への買い替え検討 ・省エネ関連製品の提案・導入促進(EVバス等)	
		地域環境活動NPOボランティア	・熊本城と八代城跡の清掃活動、森林水源涵養のための里山保全、植林地下草刈り	
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の人感センサー・スケジュール機能の見直し	
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電所発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用	
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・マニフェストの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減	         
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能のように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色 デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与	
		グリーン調達	・事務用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入	
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間とCO ₂ 排出やエネルギーの削減 ・E-ラーニングによる社員のSDGs教育 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体表温検知システム導入、販売 ・電気通信工事事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発	
2. 法規等の遵守	環境管理の推進	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の確実な把握 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫・油倉庫の整理・整頓	      
		環境法規制の遵守	・環境法規性の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する	
		ハザードマップ作成	・工事現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成、現場事務所内に掲示	
		生物多様性に配慮した工法	・工事現場地域の生物多様性に配慮した行動、工法を検討実施する	
		災害時の備え BCP対策	・非常用電源の設置、災害対策本部の見直し、連絡体制が機能するかの模擬訓練 ・長距離無線LANや安否コール等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの管理	
3. 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自立運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスパトロール実施(3カ月に1回/年4回) ・内部監査の実施 ・防災訓練・環境教育の実施	       
		各事業所単位の環境活動支援	・地域ボランティアによる環境貢献活動	
		職場環境の向上	・働き方改革の推進 ・ワークライフバランスの推進 ・ジェンダーダイバーシティマネジメントの推進 ・外国人の雇用 ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・社員旅行、花見などの社員間コミュニケーション行事の実施 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定	
4. コミュニケーションの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	・食事の機会に「3010運動」の実施 ・インターンシップや会社見学の受け入れ ・会社見学者の即時受付のための体制 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募 ・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信 ・各種寄付活動	         



環境関連法規への確認及び評価、違反・訴訟

環境法規制の遵守活動を行い、その遵守状況の評価を行った結果、環境法規制への違反はありませんでした。

環境法規制の遵守活動を通して、関係当局よりの違反等の指摘はありませんでした。

法 規 制 等	遵 守 事 項(法規制/自主規制)	遵守評価
家電リサイクル法	・リサイクル料支払い(発生時のみ)・廃棄時の適正処置(発生時のみ)	○
自動車リサイクル法	・リサイクル料支払い(発生時のみ)・廃棄時の適正処置(発生時のみ)	○
フロン排出抑制法	・廃棄時の適正処置(発生時のみ)・処理委託書提出、処理報告書の受理 ・特定施設の自主点検の実施	○
建設リサイクル法	・工事に係る分別、再資源化の実施・再資源化完了の書面報告 ・対象工事の7日前までの市町村長への届出	○
騒音規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m) ・作業敷地境界にて85デシベル以下・空調機(本社・支社)の届出	○
振動規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m)・作業敷地境界にて75デシベル以下	○
廃棄物処理法	・産業廃棄物の保管・委託契約書(5年間保存) ・マニフェスト伝票管理(5年間保存)・産業廃棄物管理表交付、状況報告 ・産業廃棄物の運搬(運搬車への表示・マニフェスト伝票の携帯)	○
消防法	・市町村条例で定める(指定数量の1/5以上、指定数量未満の場合、あらかじめ届出)	○
建設汚泥の再生利用に関するガイドライン等	・適切な調査、設計、施工及び管理を行う・リサイクルの結果を確認し、記録を保存	—
オフロード法	・特定特殊自動車排出ガスの規制	—
悪臭防止法	・塗料等を使用する場合の作業量や時間帯の検討	—
PRTR法	・排出量、移動量の把握、届出	—
水質汚濁防止法	・知事に60日前までに届出・測定を実施(記録の保存3年間)	○
下水道法	・公共下水道管理者にあらかじめ届出・生活環境項目については、条例による	○
毒物及び劇物取締法	・ケトンその他化学物質の表示、保管	○
地下水保全条例	・ポンプ(本社)の届出	○
浄化槽法	・定期点検、法定点検の実施	○

周辺住民からの環境苦情、訴訟については 苦情が1件ありましたので下記のように対応しました。

第64期 環境に関する外部苦情報告		
日付	苦情の詳細	経過と対応の詳細
5/20	定期的に、家屋前方の駐車場に白鷺電気工業の車が駐車している。自宅の目の前に駐車するので、やめて欲しい。(管理会社様より連絡あり) 【当該者は同敷地内でUターンをしていた】	社内一斉メールにて該当者を特定。当該者が敷地所有者様(苦情者)へ直接お詫びに行き、面会して謝罪を行い、ご理解を得た。管理会社へは管理本部長よりお詫びの電話をかけた。



代表者による全体の評価と見直し・指示

新本社に移転して2年が経過し、ようやく1年間の環境データを元に、今後どのように改善していくかを検討しようとしていた矢先、新型コロナウイルスによって働き方そのものを見直さなければならなくなりました。

これまで接客用の打合せ室としていた場所も開放し、ソーシャルディスタンス確保のため執務室を拡大したことなどで、今後はエネルギー使用量も増えるのではないかと考えます。

厳しい時期はまだ続くと思われるですが、感染症対策を行い社員の健康を守りながら、withコロナ時代の働き方を模索してピンチをチャンスに変えていけるよう、EA21推進委員会でPDCAを回しながら取組んでいきたいと思ひます。

● 環境経営方針について

2019年7月に改訂版を作成し、新たに「SDGs (Sustainable Development Goals)への取組み」を盛り込みました。「知る」から「行動する」、そして「貢献する」へと定めましたが、「自分ごと化」させられてこそ社内浸透も進んでいくと思ひます。社員一人ひとりの意識改革も進めながら更に働きかけを行ってください。

● 環境経営目標及び環境経営計画について

目標については2018年の実績をもとに作成しましたが、必要に応じて見直しを行ってください。

また、来期は事業年度が変わるため、その準備も併せて進めてください。

● 実施体制について

実施体制については、見直しの必要はありませんが、安全品質環境管理センターを中心に、EA21推進委員会を更に盛り上げ、全社一丸となった取組みを行ってください。

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田 幸広



ライフラインを守る使命のために

私たちの使命は、地域のライフラインを守ることです。災害発生時にいち早く現場に駆け付け、迅速な復旧作業を行うには 普段からの備えと機能的で災害に強い社屋が必要不可欠です。快適かつ機能的な私たちの本社社屋をご紹介します。



Nearly ZEBを達成 ZEBリーディング・オーナー登録 (九州内で5社のみ 2018/1/26時点)



● 耐震設計

『災害に強いビル』を目指して建物の座屈拘束ブレース(耐震材)を導入し耐震性を高め、最高ランクの耐震等級「3」相当を実現しました。



● Low-E複層ガラスと高断熱壁

外熱に左右されないよう、ビルの躯体を高断熱材で覆い、さらに日射遮蔽を設置して外熱を遮断します。窓はLow-E複層ガラスで太陽熱の侵入を防ぎ、冷暖房効率をアップしています。



● **スマート直流配電ネットワークシステム**
太陽光などの再生可能エネルギーの変換口を少なくするために、オフィスビルでは日本で初めて直流380Vで直接給電するスマート直流配電ネットワークシステムを導入しました。



● 太陽熱利用給湯

太陽光エネルギーは発電ばかりではなく給湯の熱利用としても用いています。更衣室のシャワーは熱いお湯が利用できます。



● 直流電源対応LED照明

わずかな給電で明るく長時間の点灯が可能です。



● 電気自動車用パワーコンディショナ (V2H)

電気自動車やPHEV車を住宅用の蓄電池としても活用するための設備です。停電時にも電気自動車内の蓄電池に充電できます。



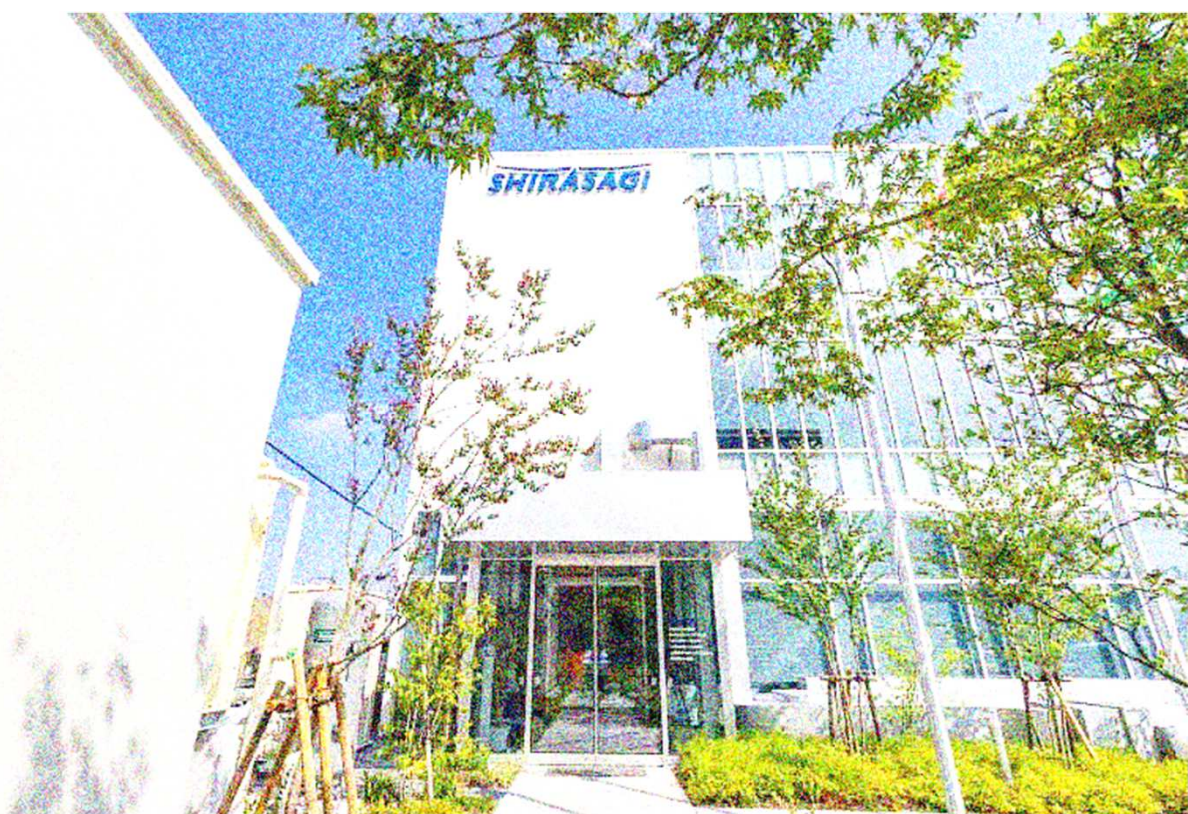
● 地中熱利用換気システム

温度が地表と比較して安定している地中の熱を空調に利用しています。夏に涼しく、冬に温かい地中7.5m付近の熱を利用して事務所の足元や天井から空調の快適環境を実現しています。



● 非常用電源と段ボールベッド

LPガス防災用発電装置を設置し、停電時は自動で自家発電に切り替わります。また、段ボールベッドは社員の家族も避難できるように準備しており、BCP対策にも力を入れています。



SHIRASAGI®